

第5回農業分科会における民間議員等の指摘事項

※議事要旨をもとに
事務局にて整理

①輸出

◎EUHACCP への合理的対応

- ★言葉で要求してきたものに一言一句丁寧に絶対に文句を言われないようにしようということではなく、書かれていることの趣旨を合理的にこちら側が説明できれば、十分交渉できる類のものだという前提でアプローチをすると全く違う結果になると思う。(秋山議員)
- ★どちらかという予算措置がなくても、もう少し手続のところを改善したり、工夫したりすることで促進することができる部分が大いにあると理解した。こうしたところも是非御対応いただきたいと思う、それをやるには農水省さんだけではなくて厚労省さんとの連携の中でやっていくことになると思うので、是非よろしく願いたい。(秋山議員)
- ★他国よりも圧倒的に厳しい基準であればそれは非関税障壁である。EUとの交渉はあまり詳しくないので、ぜひまた教えていただければと思う。(西村副大臣)

◎EUHACCP の認定手続き改善(標準処理期間の設定など)

- ★養殖業者の登録も日程が合わなかったために3か月かかったということだが、「普通に対応すれば1か月でできる」というような、標準的なものを作っていただきたい。日程の関係や書類が遅くなるなどの事業者側の事由であれば、もちろんそれは仕方がないと思うが、是非標準的なスタイルをつくっていただきたい。(西村副大臣)

◎食品添加物や残留農薬への取組推進、輸出拡大に向けた具体的実現例の積み上げ(クチナシ・紅麴など)

- ★例えば食品添加物や残留農薬への取組について、本日御用意いただいた資料の中にも項目として入っているので、具体的な実現例をどんどん積み上げていくということが非常に重要だと思っている。例えば、クチナシや紅麴など、こうしたものの取扱いをどうするかというのは、非常に細かいことだが、こうしたところを一つ一つきちんと積み上げていっていただきたいと思う。(秋山議員)

◎輸出特区のような全体のパッケージを考えた発想

- ★ビジネスで考えたときにはもう少し生産者だけではなくて、マーケティングや物流、インフラ整備等、総合的に強力で2020年までの時間軸の中でやっていくことを考えると、もう少し全体のパッケージを考えた取組が必要ではないかと思う。そうした意味では、例えば輸出特区のような考え方が一つの手段、方法になると思う(後略)。(秋山議員)

◎加工食品の輸出体制の整備(マーケティング・物流・コールドチェーン等)

- ★加工食品は、1,300億円を5,000億円に増やすという話になっているが、このジャンプアップは一体どうやって達成するのか。国内農業は基本的には作って国内の物流部門の中で販売をすればいいということになるが、これが輸出となると、新しい市場、新しい顧客に対してのマーケティングをどうするのか、物流はどうするのか。特にコールドチェーンの問題などもあり、このあたりはどう考えても民間の力を借りてやらざるを得ない、あるいはそうすることがスピードアップにつながる部分であり、こうした部分についての具体策、あるいは促進策が重要になってくるということが一番大きなポイントかと思う。(秋山議員)

◎グローバルスタンダードをベースにしたGAP

★最初から外を向いて、最初から外で通用するものはどういうものかというアプローチをすることで輸出というのは成功できると思うので、GAPについては基本的にはグローバルスタンダードベースを最初から念頭に置くということを是非お願いしたい。(秋山議員)

(参考)その他輸出関連発言

○品目別の輸出団体の育成支援

★マーケティングも含めて品目別の輸出団体の育成支援をしっかりとやっていくことは非常に評価をしているし、特に省庁間の横連携も非常にキーになってくると思う。(秋山議員)

○輸出トラブルへのワンストップ窓口の設置・省庁間連携の推進

★外交とか政治の状況によって、個々の民間業者の通関のトラブルの増減の波が起きるように、非常に関連性が高いということも現実としてあるで、このあたりは省庁の横連携でそれぞれに対応していただけることが、民間がもっと頑張ろうというところにつながってくると思う。(秋山議員)

★輸出したいという人や既に輸出をしているが何かトラブルがあったという人に、農水省や厚労省、それから税関の関係で財務省がネットワークを持っているのかもしれないし、現地でJETRO等が対応できるかもしれない。そうしたネットワークも既につくっていただいているかもしれないが、ワンストップ窓口をつくっていただき、4社か5社か、そうしたところで連携して対応してもらえるように、ぜひお願いをしたい。(西村副大臣)

○輸出 1 兆円目標達成の具体的道筋、特に 2016 年までの具体的行動の明確化

★この1兆円、ブレイクダウンしたものをそれぞれについて具体的にどうすればこれが本当に実現できるのかというところが大きな問題ではないかと思う。(秋山議員)

★2020年まで、中間目標でいけば2016年までに、いつまでに具体的に何をするのかというところを明確にしていいただきながら、それをぜひフォローアップさせていいただきたいと思う。(秋山議員)

②前回指摘事項の中間報告

◎中間報告の早期実施

★6次産業化の10兆円のKPIの達成のためにどう積み上げていくか、是非教えていただきたい。酪農・畜産政策の中で飼料米の活用方法をどうしていくか。そして、中間管理機構における議論をした事項の反映状況のフォローアップをどうしていくのか。農業委員会との関係整理、そして現場の声のアンケート、これは3月20日までに必ず発送していただきたい。そして、4月20日頃には分析に入らないと年央に間に合わない。これは必ずやっていただきたい。先日の分科会では、当方の考え方を説明した上で、それらに関連して質問もさせていただいた。この場で何日経っているのか。中間報告もあっていいのではないかと。年央までにまとめるといっても、できるものはどんどんやっていかなければならない。とりわけA-FIVEは、進んでいるという説明を受けたが、私が調べた限り、現在の状況を以って進んでいると言えるのかどうか。このあたりの御意見や御見解も、是非この場でいただきたい。(新浪議員)

有識者指摘・提案事項

○輸出を契機とした国内問題の見直し

★輸出が応用問題だというのは、輸出を見ながら国内の様々な制度問題がネックになっているということの課題を整理しておくということが、まず非常に重要だと思う。(大泉教授)

○産地別輸出データの整理による生産地のインセンティブ形成

★私が気になってくるのは、どういう品目がどういう産地でつくられて輸出されているのかということだが、そのデータはほとんど出てきていない。そうすると、例えば青森の長芋などは輸出しているが、青森県は輸出を頑張っているということで、その県の農政等にインセンティブがつくかもしれない。(大泉教授)

○水産物の資源管理の見直し

★資源管理がうまくいっていないところがあり、海外から輸入して、それを気仙沼だとか石巻で加工しているというような状況なので、その全体を見直していかなければいけない。(大泉教授)

○流通過程による米の用途の調整・畜産農家による飼料用米生産

★これは主食用米で、これは餌米だということを流通過程の中で調整して、最後に帳簿上はぴっちり合うということの方がやりやすいかもしれない。(大泉教授)
★餌米はむしろ畜産農家が組織をつくって餌米をつくらうといった方が案外うまくいくかもしれない。(大泉教授)

○農地中間管理機構の人事・有効な農地台帳システムの整備

★近々、各県単位にこの農地中間管理機構の幹部の人事がおそらく決まる。そこが私は最大の関心事であり、それを見たときに、都道府県の農業の従事者や農業生産法人の皆様から見て、これならば進むなというような人事が行われなければ、それこそこれからやろうとする改革というのは、やりたくないこともやらざるを得なくなるかもしれないという問題意識で見ている。(金丸規制改革会議農業WG座長)
★農地台帳システムについて何回も申し上げているが、ここに100億円の予算を取られてこれから使おうとしている。この100億円は、ぜひ有効に使っていただきたい。ここにはシンプルな論点があって、この100億円を1,700くらいの農業委員会に小刻みにばらまいただけで終われば、利用者が使いやすいシステムはできにくくなる。(金丸規制改革会議農業WG座長)

以上